

いわて防災学教室

災害から学び、災害に備える



高校の「地理総合」の教科書で 防災を学びませんか

岩手大学名誉教授(前岩手大学農学部森林科学科砂防学研究室教授) 井良沢 道也

2022年度から高校で社会科目の「地理総合」が必修となりました。これまで地理の履修者が激減して40年か経過しました。「地理総合」は、これまでの「地理A」と比較すると、防災(備え)視点の明示、対象地域の拡大、災害事例の選択、地理的技能の育成といった点において、各段の充実が図られています。

そこで、現在出版されている五つの出版社の全6冊の「地理総合」の教科書のすべてのページに目を通してみました。その結果について簡単に感想を述べさせていただきます。

私のように50年以上も前に高校で地理を学んだ者にとって、他の小中高の教科書すべてそうですが、全ページカラーで、非常にカラフルなものには驚かされます。特に「地理総合」は世界の様子などカラーによって伝えることが多いと思います。まず、六つの教科書(A~F)の全ページで自然災害や防災に関するページ数について調べてみました。A(12.9%)、B(9.6%)、C(13.4%)、D(14.2%)、E(11.5%)、F(13.3%)で、一番少ない教科書でも全ページの1割程度、多いのは15%近くもページ数を占めています。ただし、このページには地図の見方などは入っていません。50年以上前の地理には災害は極めて少なかったような気がするので、自然災害や防災の記載の充実が伺えます。一方、「地理総合」では全70時間(高校では50分授業)のうち、13時間(18.8%)をこうした分野にあてています。3学期のほとんどの時間をあてています。他の教科書もたいがい同様です。

ちなみに、一例として、Aの教科書の章、節、項の見出しは以下の通りです。

第3章 持続可能な地域づくりと私たち

1 節 日本の自然環境

- 1 日本の地形
- 2 日本の気候

2 節 地震・津波と防災

- 1 地震・津波による災害
- 2 地震・津波の被災地の取り組み

3 節 火山災害と防災

- 1 火山の恵みと災害
- 2 火山と共生する地域の取り組み

4 節 気象災害と防災

- 1 さまざまな気象災害
- 2 気象災害への取り組み

5 節 自然災害への備え

- 1 減災の取り組み
- 2 被災地への支援

Aの教科書は全体ページが232ページですので、30ページほど自然災害や防災にページを割いています。防災についてはハードだけでなく、ソフトではクロスロードやタイムラインなど最新の知見も入っています。写真や図も最新のものを使ってわかりやすく記載しようとする感が強いと思いました。これは他の教科書にも共通で言えることです。

ただし、私のように土砂災害を専門としている者から「地理総合」の教科書を見ると、以下のような点があげられます。

●土砂災害は地震と火山、そして気象災害のところではそれぞれ、とりあげられています。出てくる頻

度はそれなりに多いのですが、気象災害のメインの記載は洪水であることが多く、地震と火山でもメインとしてとりあげられていない。

●また、大規模崩壊や地すべりが発生して河道を閉塞し、天然ダムができるなどの複合災害についての記載も見当たらない。

●教科書の節や項にも土砂災害の名称はなく、地震・活断層、火山活動に比べて斜面災害全般の取り上げられ方が少ない。これは洪水や浸水災害にも言えます。

もちろん教科書は限られたページ数、時間の中で記載していかないといけないので、教科書をすぐに改訂するのは困難とされますので、現状では土砂災害の多発する危険の高い地域では、地域の行政との連携をもっと密にしてはどうだろう(洪水や浸水災害も同様)。

まとめとしては、以下の通りです。

●高校の「地理総合」は2022年度から必修科目になっています。

●自然災害や防災に、地理総合の教科書全ページの1割程度、多いのは15%近くも防災にページを割いています。時間数では3学期のほとんど2割近くの時間を割いています。高校の必修科目「地理総合」でこれだけ防災について取り上げられている実態は、行政の防災担当者には、まだまだ知られていないと思われる。防災教育の中核を成す科目が「地理総合」です。このため、高校とはもっと連携が必要と考えられます。

●しかし、教科書にとりあげられている事例は全国的な災害などの事例で、その地域に起きた災害は体系的には取り上げられていない。地域の災害を高校生にどう伝えていくかは課題です。

●ハザードマップの見方などで、災害についてもっと学んでもらうことや、たとえば、土砂災害の前兆現象、全国の土砂災害事例、対策など高校側に情報提供をしていくことが必要と考えられます。

今後、高校の地理の先生から、自然災害について何が課題で、防災関係者はどうお手伝いできるのか把握したいと考えています。なお、教科書は県内でも



現在、出版されているすべての「地理総合」の教科書

取り扱い書店であれば簡単に入手できます。たいたい1500円前後でフルカラーの教科書が手に入ります。最新の防災に関する知見を高校の「地理総合」の教科書で学んでみませんか。

※いわて防災学教室のバックナンバーは、岩手大学地域防災研究センターのホームページ「公開情報」で閲覧できます。